1 WEEK MASTER 4th DAY !!!

Thursday

今日マスターすること
TODAY'S GOAL !!!

CDジャケットを作る

STEP 1 ••(作業手順をチェック
STEP 2 ••(背景写真を配置する
STEP 3 ••(アーティストの写真を配置する
STEP 4 ••(手の写真を合成する

1 WEEK MASTER 4th DAY !!!
Thursday

STEP 1 作業手順をチェック

imagediveのCDジャケットを作る

どうですか？　「水曜日」までは順調に進みましたか？　今日からいよいよ実践編に突入します。これまで身に付けた機能を組み合わせて、効率良く作業を進める手順を覚えてください。ここでは、Webや映画のビジュアル作成で活躍しているimagediveが作ってくれた、まさに書き下ろしの作例（架空のCDジャケット&レーベルデザイン）を練習します。もちろん、「自分ならこうするんだけど」という箇所もあると思いますが、まずは一度手順の通りに操作してみてください。そして、2度目、3度目と繰り返して練習しながら、自分流の手順やテイストを見つけていってください。

写真の合成

今日はCDジャケットのメインの作業、写真合成を行います。Photoshopならではの高度な合成と、アートワーク担当imagediveの透明感のあるテイストを楽しんでください。

最初に、作業の大まかな流れをつかんでおきましょう。

(1) CDジャケットのサイズで新しい書類を用意する

12cm×12cmの書類を作る。

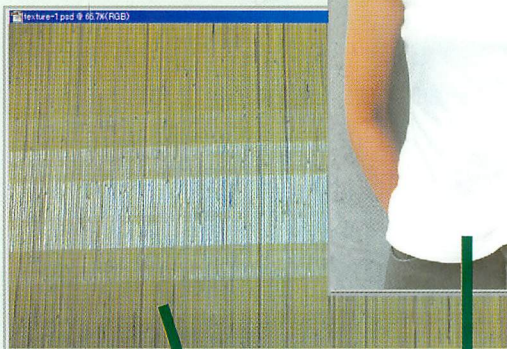
(2) そこに3枚の写真を重ねていく

CDジャケットの書類に、3枚の写真を取り込んでいく。

(3) それぞれの写真を、特殊な手法で合成する

レイヤー機能を使って、3枚の写真を特殊な方法で半透明にして合成する。

(4) 色や位置などの微調整を行う

それぞれの写真の位置やサイズ、色を調整する。

▲3枚の写真を合成します。

☞ヒント!!

ここで使った写真

ここで使用する写真は全部デジタルカメラで撮った身の回りの風景なんですって。ちなみに、機種はSONYの新型サイバーショットだそうです。手軽な素材収集アイテムとして、デジタルカメラは本当に便利ですよね。

背景写真を配置する

このステップの流れ

ここでは以下の作業を行います。

(1) CDジャケットのサイズの書類を作る

一般的なCDジャケットの12cmの正方形で新規書類を作ります。

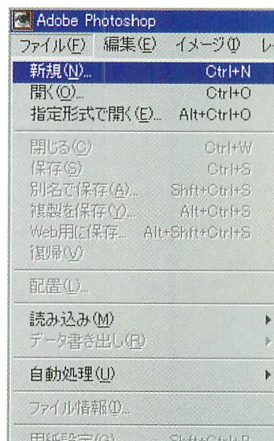
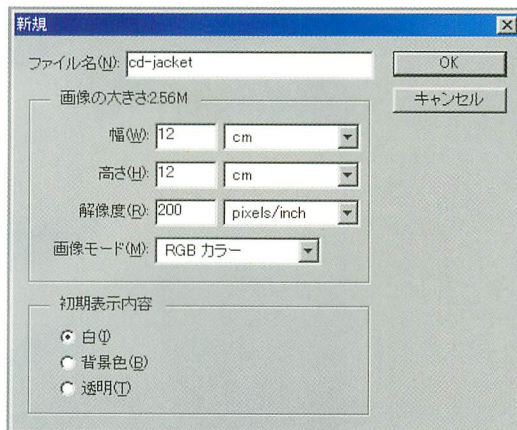
(2) 背景画像の取り込み

模様に使う背景の写真を取り込みます。

(3) 背景画像の変形

背景画像をCDジャケットの大きさに合わせて変形します。

CDジャケットのサイズの書類を作る

まずは、CDジャケットの大きさの書類を作りましょう。それから、その書類の上に背景の写真やアーティストの写真を重ねていきます。

1 Photoshopを起動して、[ファイル] メニュー→ [新規] (Ctrlキー＋N) を選びます。

2 [新規] ダイアログボックスが現れます。[ファイル名] に「CD-jacket」と入力してください。[幅] [高さ] ともに [12] cmに、[解像度] を [200] pixels/inchにして、[OK] ボタンをクリックします。

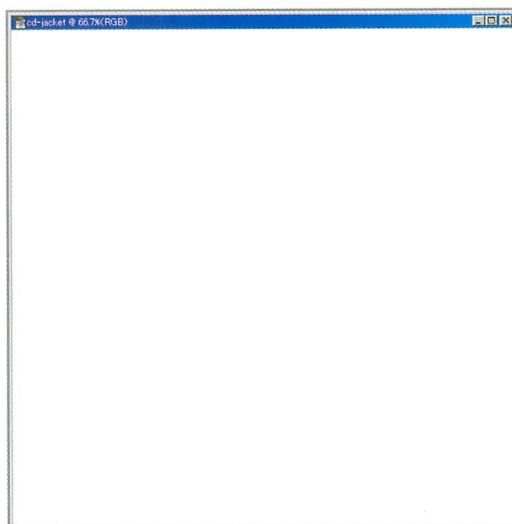
ここがポイント!!

解像度は目的に合わせて決める

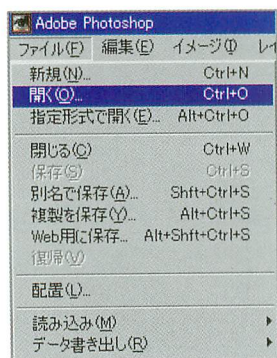
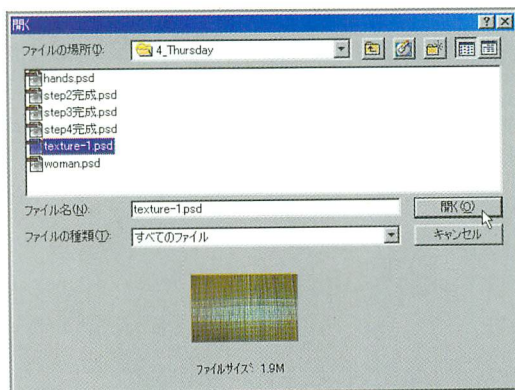
ここで作成するCDジャケットは、手持ちのカラープリンタでプリントすることを前提に、解像度は200ppi程度にしていますが、実際に印刷所に入稿するのであれば、解像度はもっと高くしておく必要があります。一般的な175線で印刷する場合は、350ppiで作成します。解像度については「火曜日」に説明していますが、印刷所により多少の違いがありますので、印刷所の担当者に確認することをおすすめします。

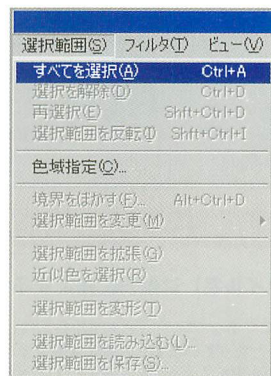
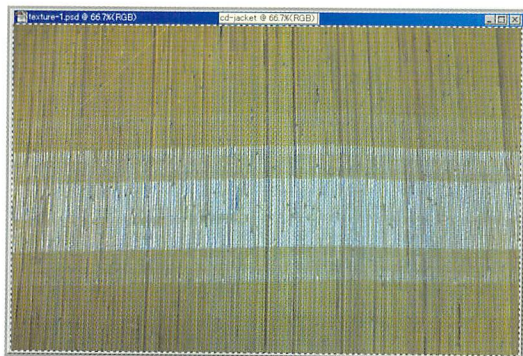
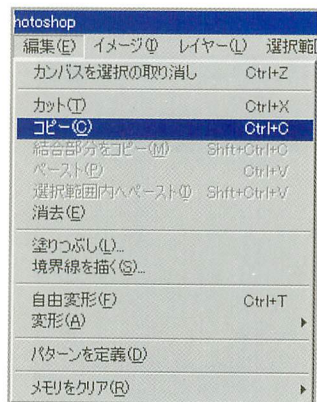
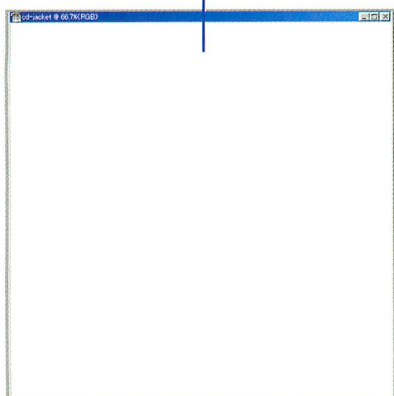
☞ヒント!!

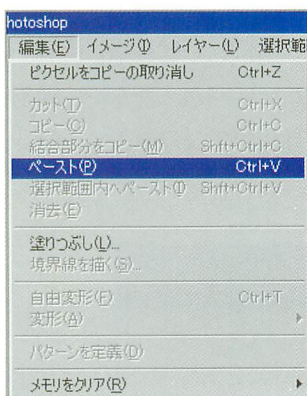
［ファイル名］は最初に指定するの？

［新規］ダイアログボックスの［ファイル名］は、初期設定では「名称未設定1」となっています。名前を変更せずに作業して、最終的に保存する段階でファイル名を指定してもかまいません。

3 指定したサイズで新しい書類が開きます。画面表示サイズなどを確認しておきましょう。タイトルバーを見ると表示倍率が表示されています。

背景画像の取り込み

背景用の画像を開き、CDジャケットの書類に取り込みます。取り込み方法は何通りかありますが、ここではもっとも基本的な方法として、コピー＆ペーストを使ってみましょう。

1 ［ファイル］メニュー→［開く］（Ctrlキー＋O）を選びます。

2 特別付録CD-ROM内の「4_Thursday」フォルダにある「texture-1.psd」ファイルを開きます。

3 これが「texture-1.psd」ファイルです。この写真をCDジャケットの背景に模様的に使ってみましょう。

4 [選択範囲]メニュー→[すべてを選択](Ctrlキー＋A)を実行します。

5 写真の周囲に選択の境界線が表示され、全体が選択されたことがわかります。

6 [編集]メニュー→[コピー](Ctrlキー＋C)を選択します。

7 ペースト先は「CD-jacket」ファイルです。「CD-jacket」のウインドウ（どこでもかまいません）をクリックして、アクティブウインドウにします。

hotoshop
編集(E) イメージ(I) レイヤー(L) 選択範
ピクセルをコピーの取り消し Ctrl+Z
カット(T) Ctrl+X
コピー(C) Ctrl+C
結合部分をコピー(M) Shift+Ctrl+C
ペースト(P) Ctrl+V
選択範囲内へペースト(I) Shift+Ctrl+V
消去(E)
塗りつぶし(L)...
境界線を描く(S)...
自由変形(F) Ctrl+T
変形(A)
パターンを定義(D)
メモリをクリア(R)

8 ［編集］メニュー→［ペースト］（Ctrlキー＋V）を実行します。

☞アクティブウインドウ

選択されたウインドウをアクティブウインドウといいます。Photoshopで行う操作は、すべてこのアクティブウインドウに対して実行されます。アクティブウインドウの見分け方は簡単です。複数のウインドウが重なっている場合は、アクティブウインドウが一番手前になっていますし、タイトルバーにクローズボックスなどの表示があります。非アクティブウインドウは、アクティブウインドウの後ろに隠れて、タイトルバーもグレー表示です。

☞ヒント!!

ペーストの位置は決められないの？

ペーストした画像は、画面の中央に配置されます。ただし、選択範囲がある場合は、その選択範囲の中に配置されます。

9 「texture-1.psd」が「CD-jacket」ファイルの中央にペーストされました。

ここがポイント!!

勝手にできちゃう［レイヤー1］

コピー＆ペーストで画像を取り込んだ場合、自動的に新しいレイヤーができあがり、そのレイヤー上に画像が配置されます。ドラッグ＆ドロップでも、コピー＆ペーストと同様に［レイヤー］という名前で別レイヤーとして取り込まれます（101ページを参照）。

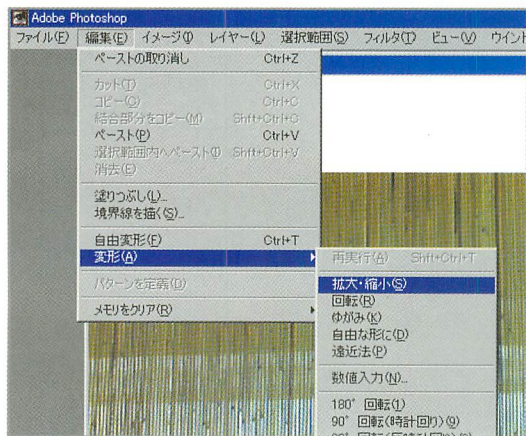
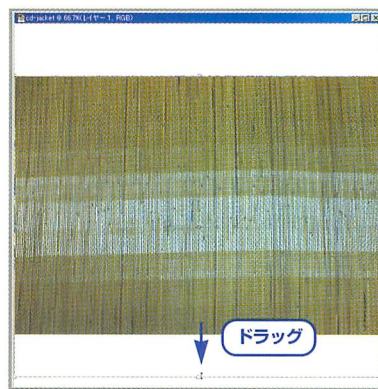
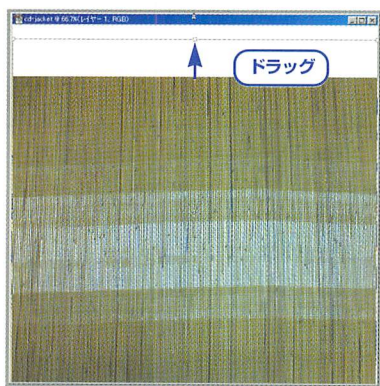
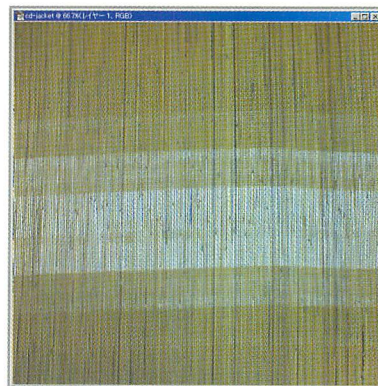
10 ［レイヤー］パレットを見てみると、ペーストした画像は新しいレイヤーに配置されていることがわかります。

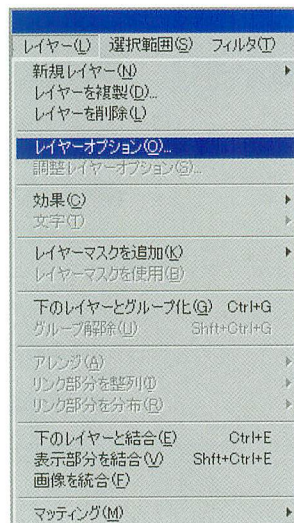
☞ヒント!!

選択の必要なし

画像全体に対して何かの操作を行う場合は、その画像を選択しておく必要はありません。選択されているレイヤーの画像全体が、操作の対象になります。

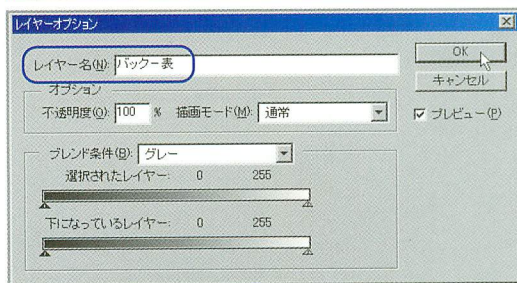
背景画像を引き伸ばす

背景用の画像は高さが足りなくて、上下に余白ができていますよね。[変形] コマンドを使って、この画像がCDジャケット全体に広がるように、縦に伸ばします。もちろん人の顔などならむやみに伸ばしたりしてはいけませんが、これは模様に使う写真なので、多少変形しても問題ありません。

1 [編集] メニュー→ [変形] → [拡大・縮小] を選択します。

2 背景用の画像の周囲にハンドルが表示されます。まず、下のハンドルをつかんで、余白が隠れるまで下にドラッグして画像を伸ばしてください。

3 同様の手順で、上のハンドルを一番上までドラッグします。

4 これで背景用の画像がCDジャケット全体に広がりました。Enterキーを押すか、ダブルクリックして変形を確定させましょう。

5 レイヤーの名称を変更しておきましょう。[レイヤー] パレットの [レイヤー1] が選ばれている状態にします。

6 [レイヤー] メニュー→ [レイヤーオプション] を選択します。

☞ヒント!!

[レイヤーオプション] ダイアログボックスの出し方

[レイヤー] パレットの [レイヤー1] をダブルクリックしても、[レイヤー1] の [レイヤーオプション] ダイアログボックスを出すことができます。

7 [レイヤーオプション] ダイアログボックスが現れます。[レイヤー名] に「バック一表」と入力します。

8 [レイヤー] パレットを見てみると、[レイヤー1] が [バック一表] に変わったのがわかります。

アーティストの写真を配置する

このステップの流れ

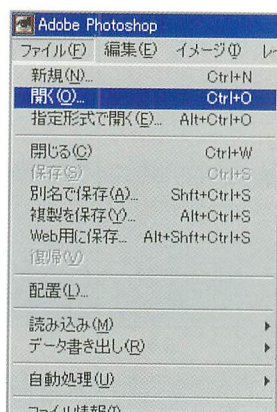
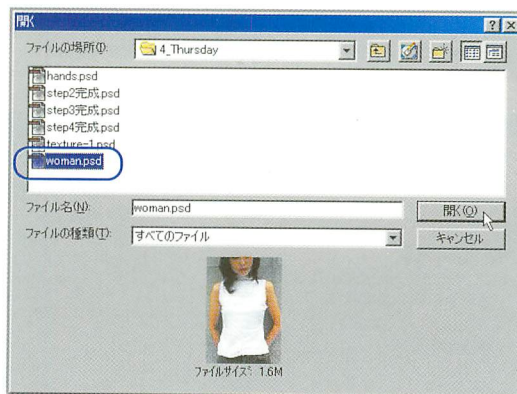
ここでは以下のことを練習します。

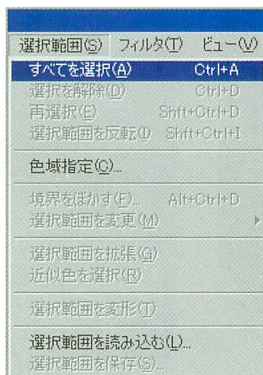
(1) アーティストの写真を取り込む

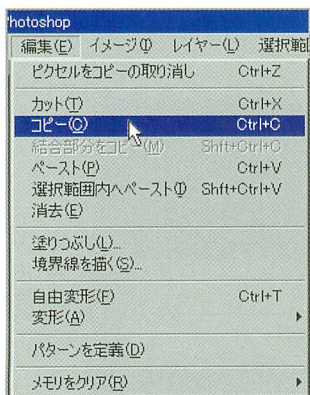
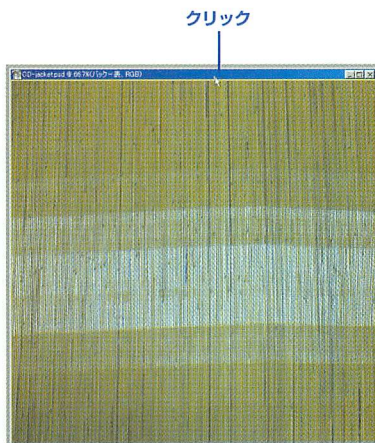
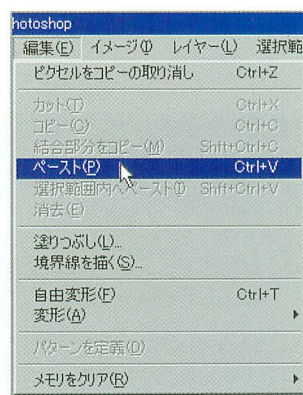
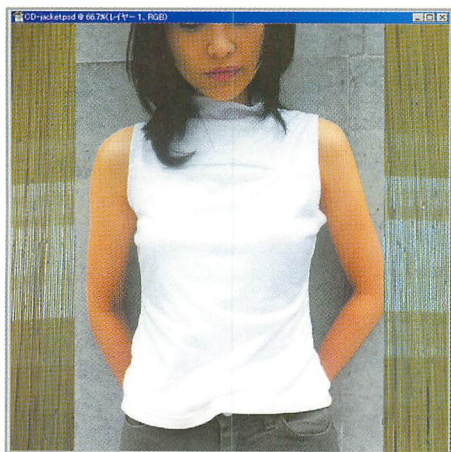
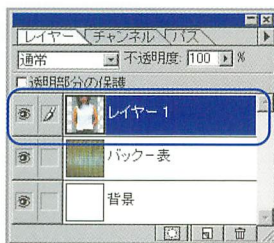
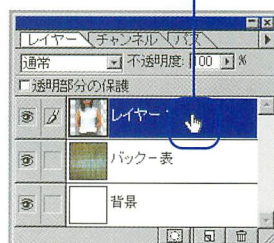
背景画像の上に、アーティストの写真を配置します。

(2) 不必要な部分を削除する

アーティストの写真の両わきを削除します。

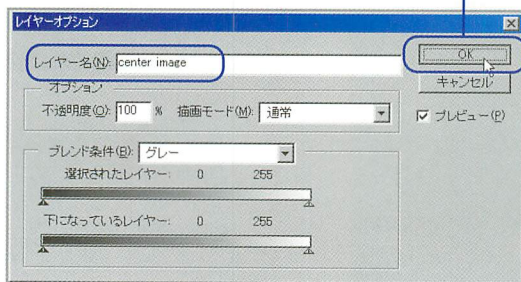
ここでも、さきほどと同じ手順が出てきます。頻繁に使うコマンドは、是非ショートカットを使ってください。その方がスピーディーですからね。ショートカットはできるかぎり左手だけで押しましょう。そうすれば、右手のマウスは常に目的地を目指して動かせますから。たとえば、左手でCtrlキー+Cをしているうちに、マウスはペースト先のウインドウをクリックするためにウインドウ上で待機している、といった具合です。それから、Ctrlキーはいつも小指で押すというふうに指を決めておくと、キーボードを見ないでもショートカットが使えるようになります。

1 [ファイル] メニュー→ [開く] (Ctrlキー+O) を選びます。

2 特別付録CD-ROM内の「4_Thursday」フォルダにある「woman.psd」ファイルを開きます。

3 これがCDジャケットのメインとなるアーティストの写真です。

4 [選択範囲] メニュー→ [すべてを選択] (Ctrlキー＋A) を実行します。

5 写真の周囲に選択の境界線が表示され、全体が選択されたことがわかります。

6 [編集] メニュー→ [コピー] (Ctrlキー＋C) を選択します。選択しているアーティストの写真がコピーされるわけです。

7 「CD-jacket」のウインドウをクリックしてアクティブにします。

8 [編集] メニュー→ [ペースト] (Ctrlキー＋V) を実行します。

9 模様の画像の上に、コピーしていた写真がペーストされます。

10 [レイヤー] パレットを見てみると、ペーストした写真は新しいレイヤーに配置されていることがわかります。

11 このレイヤーの名前を変更しましょう。[レイヤー] パレットの [レイヤー1] をダブルクリックしてください。

☞ヒント!!

[レイヤーオプション] ダイアログボックス

[レイヤーオプション] ダイアログボックスは、[レイヤー] メニュー→ [レイヤーオプション] を選んで出すこともできますが、ここで操作したように [レイヤー] パレットで目的のレイヤーを直接ダブルクリックして出すこともできます。この方がスピーディーに操作できますよ。

12 [レイヤーオプション] ダイアログボックスが出てきます。[レイヤー名] を「center image」と変えて、[OK] ボタンをクリックします。

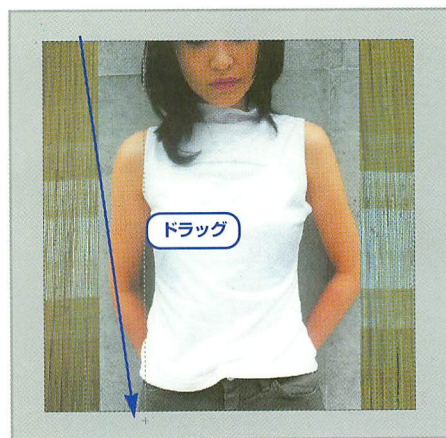
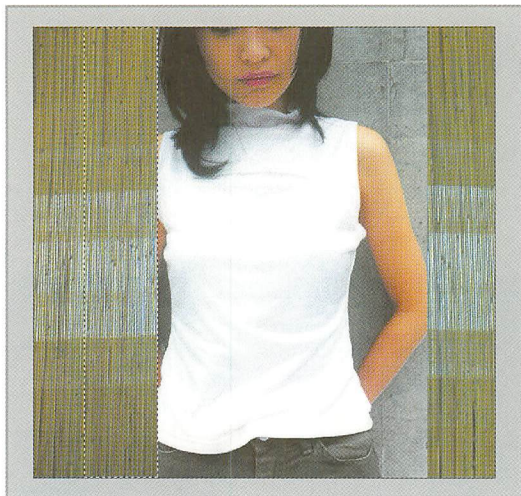
13 [レイヤー] パレットで確認すると、レイヤーの名前が [center image] に変わったことがわかります。

アーティストの腕を消す

取り込んだ写真の両わき、ちょうど腕の部分を削除します。もちろん写真を開いた時点でトリミングしておいてもよかったのですが、ここでは、全体のバランスを見ながら作業を進めたかったので、CDジャケットに取り込んでから不要な部分を削除していきます。下に重なっている模様の画像とのバランスを意識しながら、作業を進めましょう。

1 [center image] レイヤーが選択されている状態で、ツールボックスの [メニュー付きフルスクリーンモード] ボタンをクリックします。

2 写真がウインドウなしの状態でモニタいっぱいに広がり、作業しやすくなります。さらにTabキーを押すと、パレットやツールボックスが非表示になり、写真が見やすくなります。

3 これから腕を選択しますので、ツールボックスから [矩形選択] ツールを選んでください。

4 [レイヤー] パレットで [center image] レイヤーが選ばれていることを確認して、女性の右腕（画面向かって左側）をドラッグして選択します。

5 キーボードの［delete］キーで選択範囲を削除します。この写真の下には模様の画像がありますので、削除した部分には模様が現れます。

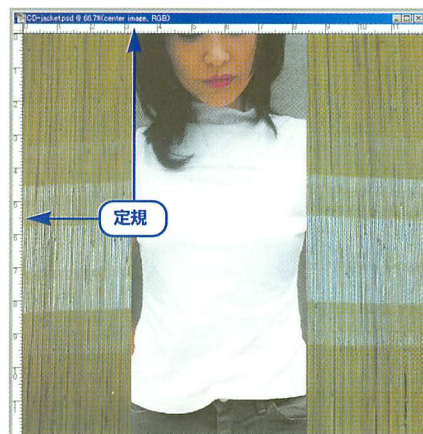
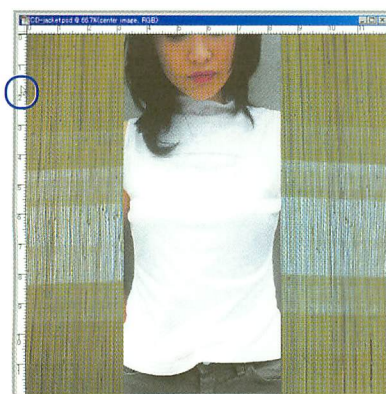
6 反対側（画面向かって右側）も同様に［矩形選択］ツールでドラッグして選択します。

7 ［delete］キーで削除します。これで写真の両わきがなくなり、細長い写真になりました。

ガイドラインを引く

左右をカットしたアーティストの写真を画像全体の中心に配置するため、目安となるガイドラインを引いておきましょう。

1 ツールボックスから［標準モード］ボタンをクリックします。メニューなどが表示された通常の画面に戻ります。

2 ［ビュー］メニュー→［定規を表示］（Ctrlキー＋R）を選択します。

3 ウインドウの左側と上部に定規が表示されました。

4 左側の定規の上にポインタを持っていき、マウスボタンを押します。

5 そのまま右方向へドラッグするとガイドラインが現れます。画面の中央まで持ってきてください。

ヒント!!

定規のショートカット

［定規を表示］と［定規を隠す］（定規が出ているときのコマンド名）のショートカットは、Ctrlキー＋R。ruler（ルーラー）の頭文字のRです。

ガイドラインの位置を直す

ガイドラインが画像の中心に正しく引けたかどうか、拡大して確認してみましょう。必要なら、ガイドラインの位置を修正しましょう。

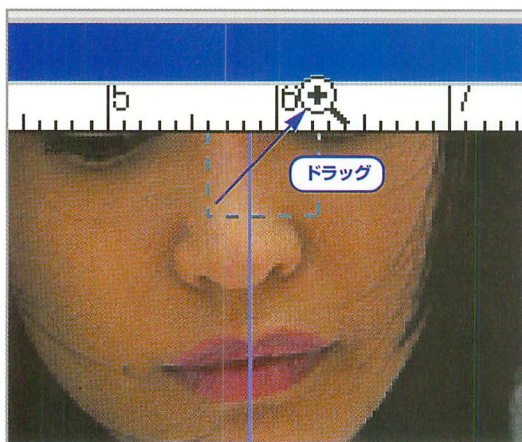
☞ヒント!!

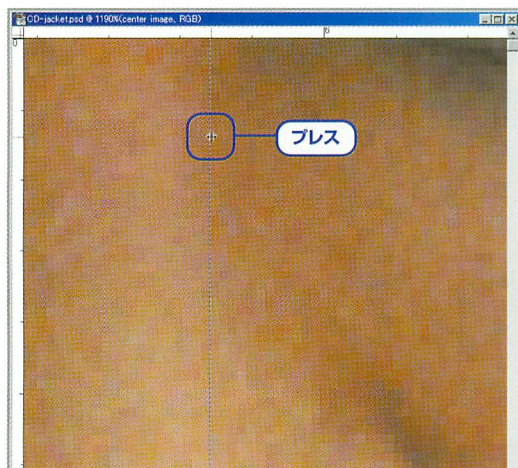
ガイドラインの色

ガイドラインの色は［ファイル］メニューの［環境設定］→［ガイド・グリッド］にある［ガイド］で変更することができます。写真の色との相性で見づらいようなら、色を変更してください。

☞ヒント!!

［ズーム］ツールのショートカット

画面表示を拡大するには、スペースバーとCtrlキーを押しながら画面をクリック、またはドラッグします。反対に画面表示を縮小するには、Ctrlキーの代わりにAltキーを使って、スペースバー＋Altキーで画面をクリックします。

1 画面表示を拡大して、ガイドラインの位置を確認しておきましょう。ツールボックスのズームツールに切り替えて、定規の［6］cmの部分（CDジャケットの幅12cmの真ん中）をドラッグして拡大します。

2 ガイドラインが少しずれているようなので、修正しましょう。正しく6cmの位置にガイドラインが引かれている人は、図5へとんで作業してください。ツールボックスから［移動］ツールを選択します。

3 ガイドラインをプレスしてみてください。ポインタが変わりますよね。

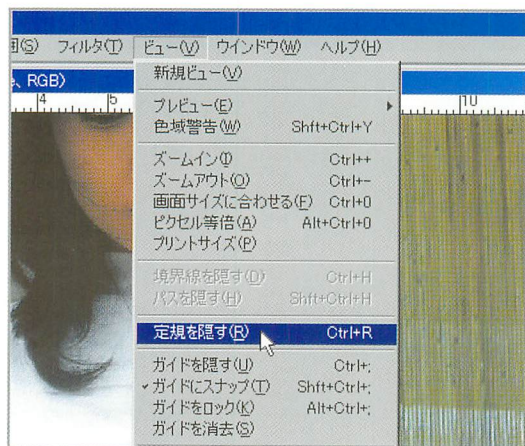
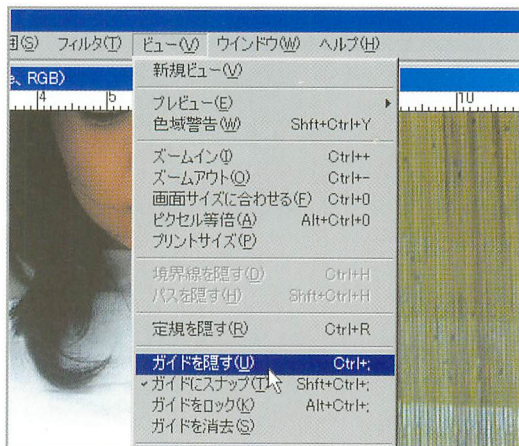
4 そのまま画面の中央、定規の6cmのところまでドラッグします。これで修正は終わりました。

ヒント!!

[画面サイズに合わせる]のショートカット

[画面サイズに合わせる]のショートカットは、Ctrlキー+0です。これはアルファベットのO（オー）ではなく数字の0（ゼロ）です。

5 拡大した画面表示を元の大きさに戻しましょう。[ビュー] メニュー→ [画面サイズに合わせる]（Ctrlキー+0）を選択します。

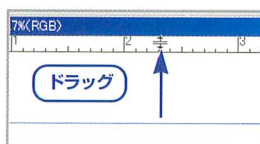
6 ウインドウ全体がちょうどモニタに収まるサイズになります（モニタの解像度によって、倍率は異なる場合があります）。

7 ガイドラインの利用はこれで終わりますので、定規はもう必要ありません。［ビュー］メニュー→［定規を隠す］（Ctrlキー＋R）で、定規を非表示にします。

8 ガイドを非表示にしておきます。［ビュー］メニュー→［ガイドを隠す］を選択します。

9 ガイドラインが一時的に非表示になります。

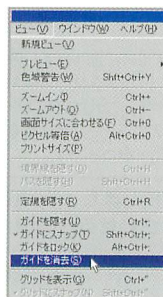
ヒント!!

ガイドラインを削除する

●不要なガイドラインを削除する

［移動］ツールで不要なガイドラインをドラッグして、ウインドウの外に出します。

◀移動ツールでウインドウの外にドラッグしましょう。

●複数のガイドラインを一括削除

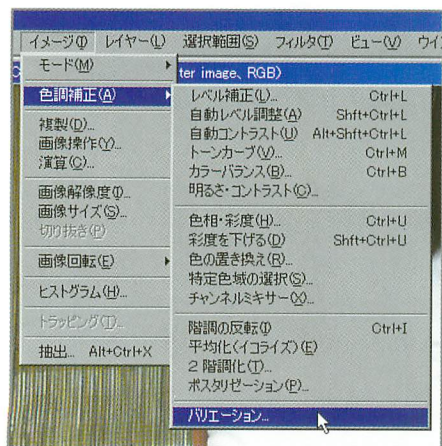
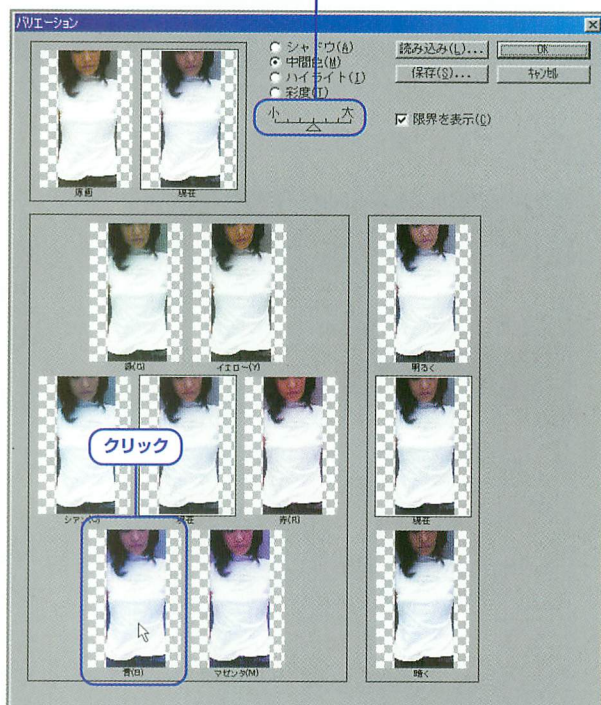
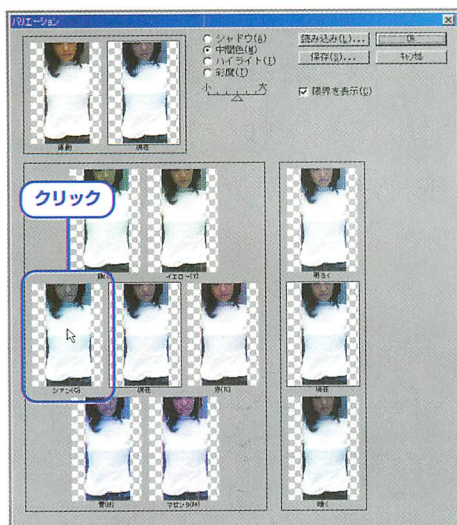
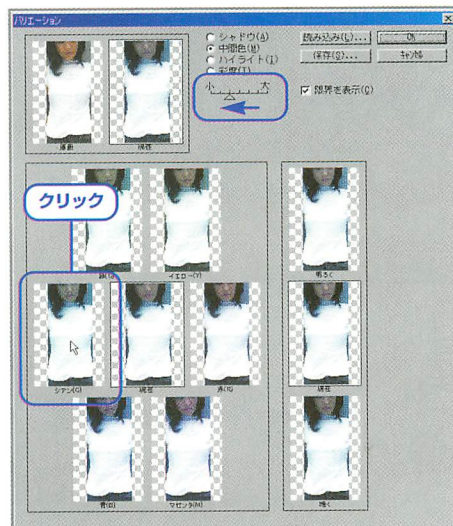
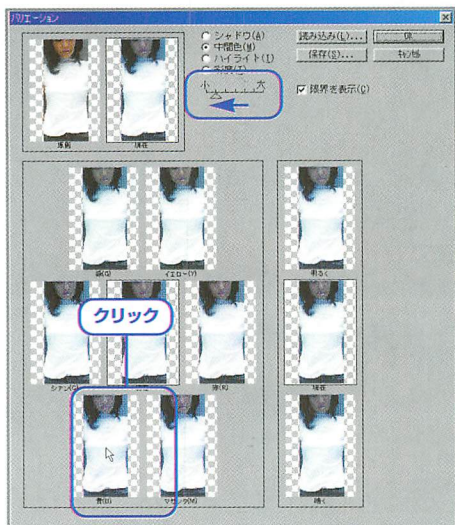
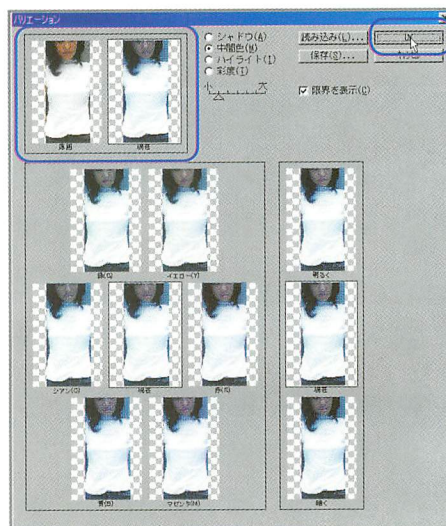
［ビュー］メニュー→［ガイドを消去］を実行します。

◀［ビュー］メニュー→［ガイドを消去］を選択すると、画面上のすべてのガイドラインが削除されます。

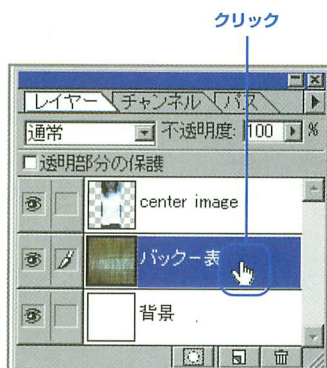
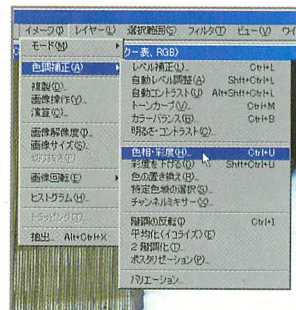
写真の色を変える

「バリエーション」機能を使って、人物の写真の色を変えてみましょう。ここでは青を強調した色に変えて、大人っぽい雰囲気に仕上げていきます。

ここがポイント!!

色の変化の強さをコントロールする

[バリエーション] ダイアログボックスの上方にあるスライダで、色を1回クリックしたときの強さを設定することができます。[小] に近付ければ色の変化は少しだけになり、[大] に近付けるほど色の変化が大きくなります。

1 [イメージ] メニュー→ [色調補正] → [バリエーション] を選択します。

2 [バリエーション] ダイアログボックスが現れます。画面左下の [青 (B)] ボタンを1回クリックします。写真が少しだけ青みを帯びます。

3 続けて、今度は［シアン（C）］を1回クリックします。

4 もう少しシアン寄りにしたいのですが、やりすぎないように適用量を調整しましょう。ダイアログボックス上方にあるスライダを1段階左に（小の方へ）動かしてから、［シアン］を1回クリックします。

5 さらにもう少しだけ青っぽくしたいので、スライダをもう1段階左に動かし、［青］を1回クリックします。

6 ダイアログボックス左上の［原画］と［現在］を見比べてください。写真全体が青っぽく仕上がりました。これでバリエーションでの色調整は終了です。［OK］ボタンをクリックします。

7 写真の色を青っぽくしたので、それに合わせて背景画像の色も調整した方がよさそうです。

8 [レイヤー] パレットで [バックー表] レイヤーをクリックして選択します。

9 [イメージ] メニュー→ [色調補正] → [色相・彩度] (Ctrlキー＋U) を選びます。

10 [色相・彩度] ダイアログボックスが現れます。[色相] のスライダを動かして [－100] 前後に設定します。[プレビュー] にチェックを付けて、画面上で確認してみましょう。色の変化が確認できたら、[OK] ボタンをクリックします。

11 背景画像が赤紫っぽくなります。これで2つのレイヤーの色の調整作業は終わりです。[ファイル] メニュー→ [保存] で保存しておきましょう。

手の写真を合成する

このステップの流れ

このステップでは以下のことを練習します。

(1) 手の写真を取り込む

ドラッグ＆ドロップでの取り込みを練習します。

(2) レイヤーの移動

手の写真のレイヤーを一番上に移動します。

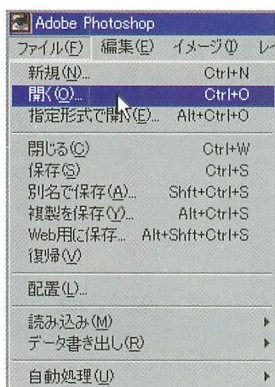
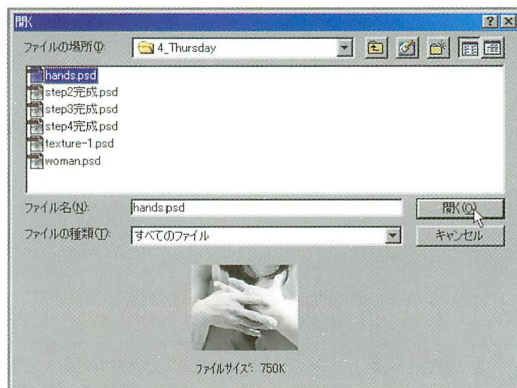
(3) 手の写真の位置とサイズを調整

手の写真を画面の中央に配置し、画面全体にフィットさせます。

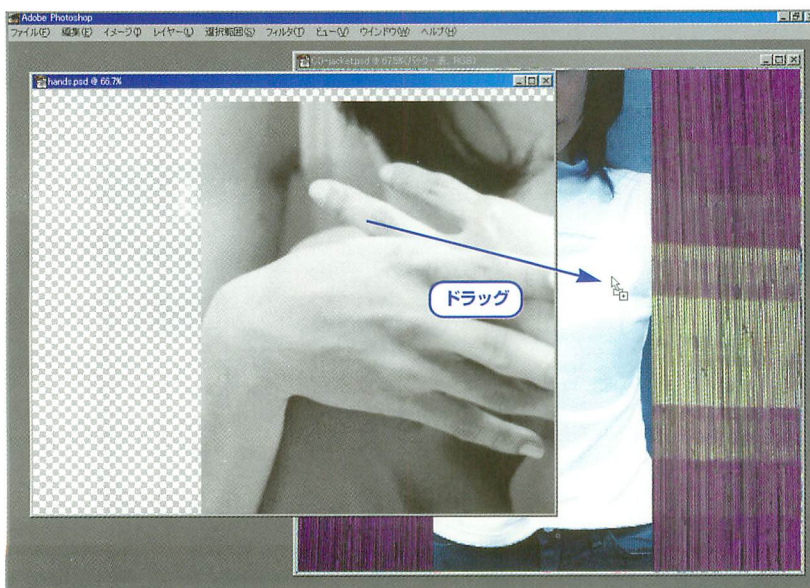
(4) 手の写真に色をつける

グレースケールの手の写真に、「バリエーション」を使って色をつけてみます。

手の写真を取り込む

手の写真を取り込みます。STEP3の取り込み方法とは違って、ここではドラッグ＆ドロップを使ってみましょう。

1 [ファイル] メニュー→ [開く] (Ctrlキー＋O) を選びます。

2 特別付録CD-ROMの「4_Thursday」フォルダの「hands.psd」ファイルを開きます。

3 グレースケールの手の写真が開きます。タイトルバーでサイズを確認しておきましょう。

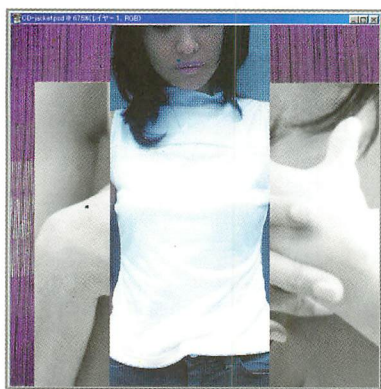
4 ツールボックスから［移動］ツールを選びます。

5 手の写真「hands.psd」のウインドウと「CD-jacket」ウインドウの両方が見えるように、ウインドウの位置を動かします。そして手の写真を、［移動］ツールで「CD-jacket」ウインドウへドラッグしてください。

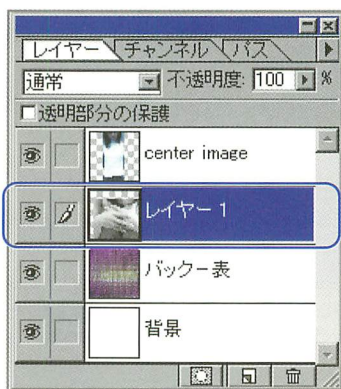
ここがポイント!!

ドラッグ＆ドロップがおすすめ

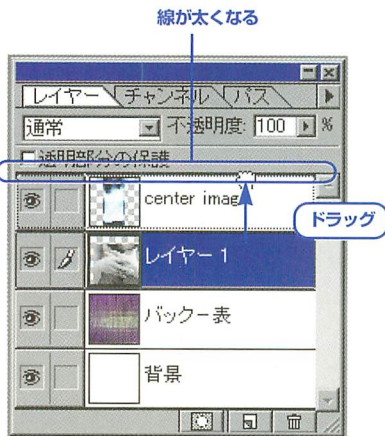
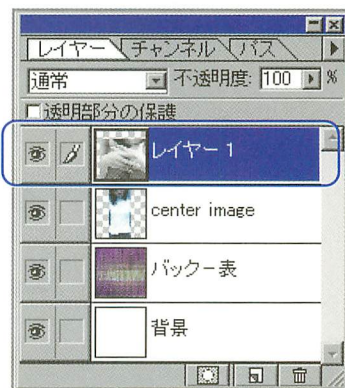
ドラッグ＆ドロップは、移動したいものを移動先へドラッグして動かす方法です。［コピー］してから［ペースト］するよりも、簡単でスピーディーですから、モニタのスペースが広くて複数の写真を開いておけるなら、こちらの方法が便利です。どんどん活用してください。

レイヤーの順番を変更する

取り込まれた手の写真は、どの位置に配置されたでしょう？　本当は他の写真の一番上に重ねたかったのですが、背景画像とアーティストの写真の間になってしまいました。そこで、レイヤーの重なりを変更しましょう。

1 手の写真が「CD-jacket」ウインドウに取り込まれました。これで、背景画像、アーティストの写真、手の写真の3つの写真が重なったわけです。

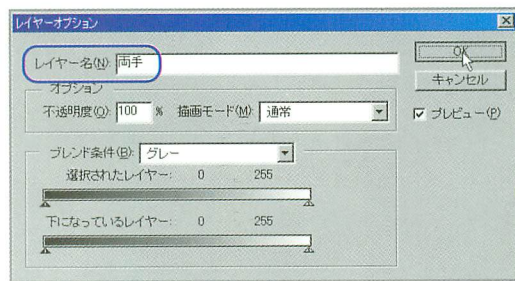
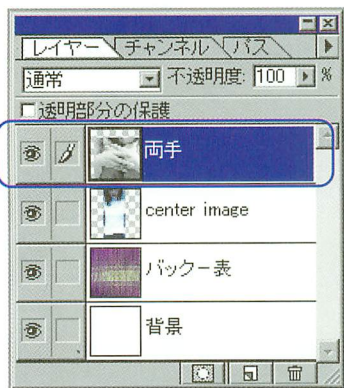
2 ［レイヤー］パレットで確認すると、前のステップの最後に［バック一表］のレイヤーを選択していたままだったので、手の写真はそのすぐ上に［レイヤー1］として配置されています。

ここがポイント!!

取り込んだ写真はアクティブレイヤーの上に配置

ドラッグ＆ドロップやコピー＆ペーストで取り込んだ写真は、その時点で選択されているレイヤー（アクティブレイヤー）のすぐ上に配置されます。

3 ［レイヤー］パレットの［レイヤー1］レイヤーをドラッグして［center Image］レイヤーの上に持っていきます。

4 手の写真の［レイヤー1］が、一番上に移動しました。

レイヤーの名前を付け変える

取り込んだ状態では、手のレイヤーは［レイヤー1］となったままです。わかりやすいレイヤー名に変更しておきましょう。

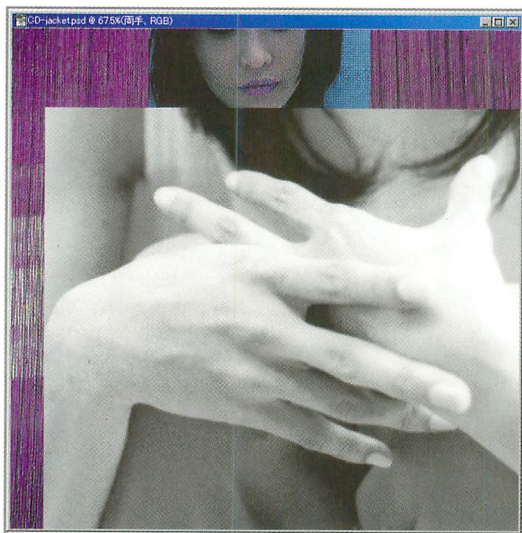
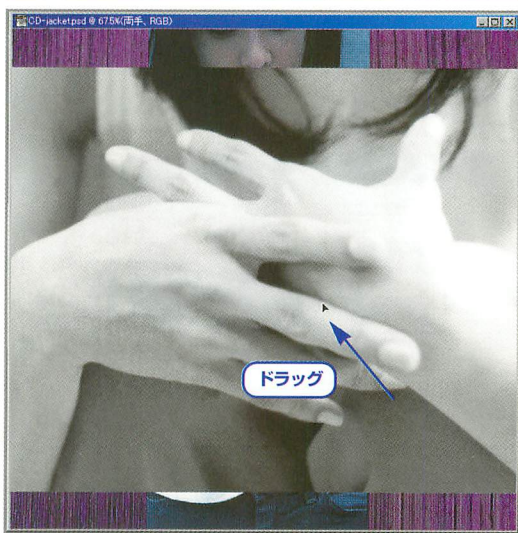
1 ［レイヤー］パレットの［レイヤー1］をダブルクリックします。

2 ［レイヤーオプション］ダイアログボックスが現れます。［レイヤー名］を［両手］にして［OK］をクリックします。

3 ［レイヤー］パレットで確認してください。［両手］という名前にちゃんと変わっていますよね。

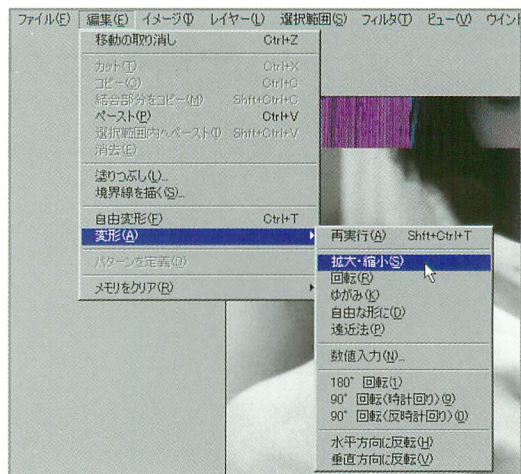
写真の位置とサイズの調整

手の写真が全体の中央に来るように位置を調整します。サイズがちょっと小さいので、「変形」コマンドで拡大しましょう。今日の最初のステップでも「変形」コマンドを使って背景画像を大きくしましたが、今度は写真の比率が変わらないように、ショートカットを使った変形操作を練習します。

ここがポイント!!

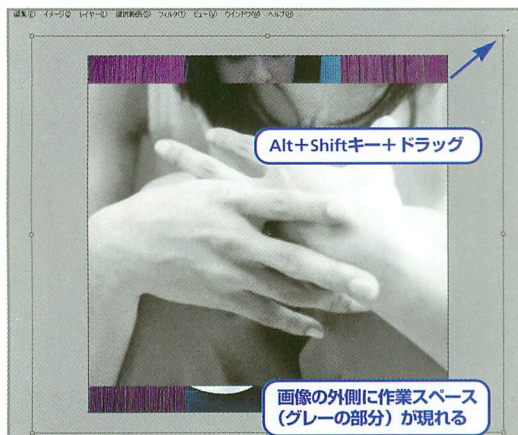
目的のレイヤーをアクティブにしておく

複数のレイヤーがある場合、必ず目的のレイヤーが選択されているか（アクティブレイヤーになっているか）確認してから作業を行いましょう。たとえば位置を調整するとき、他のレイヤーが選ばれていると、そっちのレイヤーが動いてしまいます。

1 手の写真が一番上になっています。位置を整えましょう。

2 [移動] ツールで手の写真をドラッグして、全体の中央に来るようにします。

3 ツールボックスの［メニュー付きフルスクリーンモード］ボタンをクリックします。写真の周囲の余白も表示されるので、変形操作がしやすくなります。

4 ［両手］レイヤーが選択されている状態で、［編集］メニュー→［変形］→［拡大・縮小］を選択します。

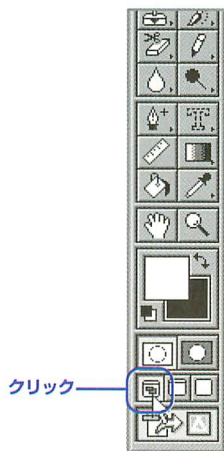
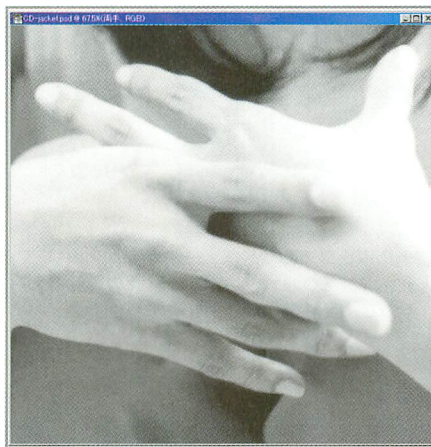
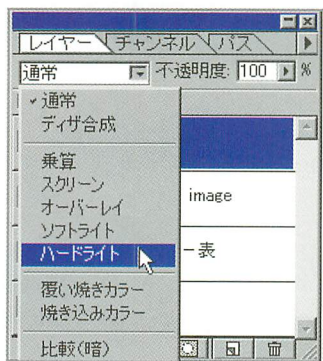
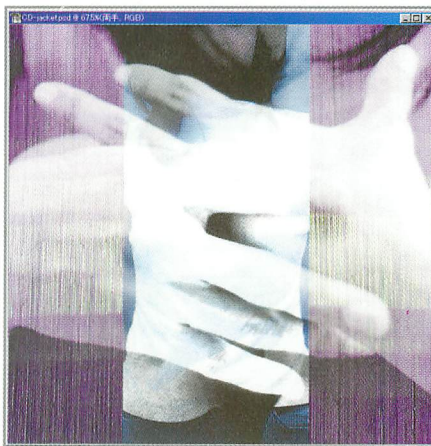
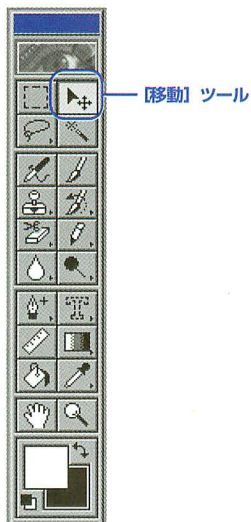
ここがポイント!!

Altキーは中心を基準、Shiftキーは縦横比を固定

変形するときにAltキーとShiftキーを押していますが、Altキーは写真の中心を基準として拡大するため、Shiftキーはドラッグ方向を45度に制限して写真の縦横比を固定するために使っています。

5 写真の周囲にハンドルが現れます。角のハンドルを、AltキーとShiftキーを押しながらドラッグして拡大します。後ろの写真が見えなくなってもかまいませんので、目いっぱい広げてください。

6 拡大できたら、手の写真が画面の中央に来るようにドラッグします。変形作業を確定するために、キーボードのEnterキーを押してください。

描画モードを変える

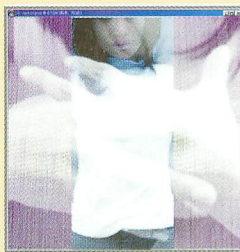
［レイヤー］パレットの描画モードを切り替えて、手の写真の下にある他の2枚の写真が透けて見えるようにしましょう。ここでは「ハードライト」という描画モードを利用します。

1 ツールボックスの［標準画面表示］ボタンをクリックします。

2 これで通常の画面表示（ウインドウのある画面）に戻りました。

3 ［レイヤー］パレットの［両手］レイヤーが選ばれている状態で、［描画モード］をプレスして、［ハードライト］に切り替えます。

4 ［ハードライト］で合成すると、下の写真が透けて見えます。［ハードライト］は写真のコントラストを強調する描画モードです。

5 ツールボックスで［移動］ツールが選ばれていることを確認してください。

6 アーティストの顔が隠れてしまっているので、手の写真を少し下にずらします。

ちょっとコラム　描画モードによる特殊合成

●描画モードを変える

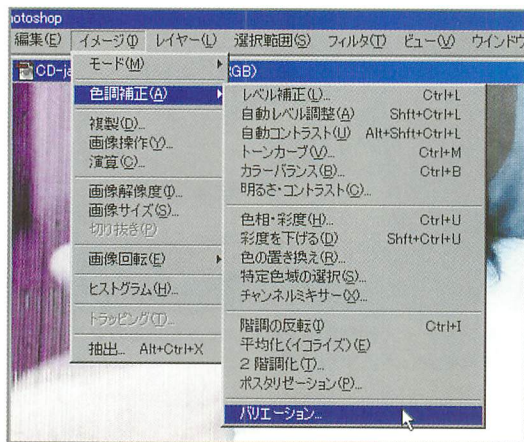
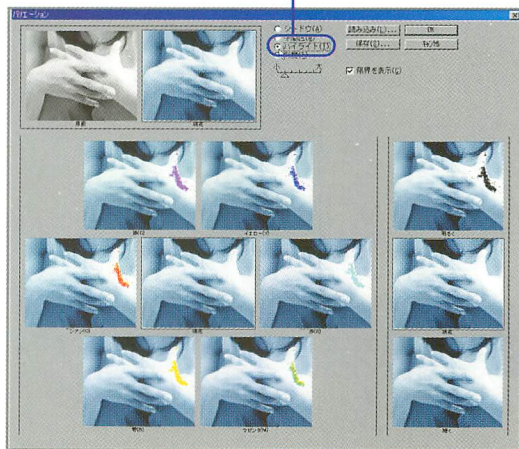
レイヤーパレットの［描画モード］を使った特殊な合成は、手軽で効果的なテクニックです。種類によって効果がまったく変わります。

1 乗算
ポジフィルムをライトテーブル上で重ねたように、明るい部分は明るく、暗い部分はより暗くなります。

2 スクリーン
ハイライトとシャドウ部分だけに適用され、結果としては鮮やかな画像になります。

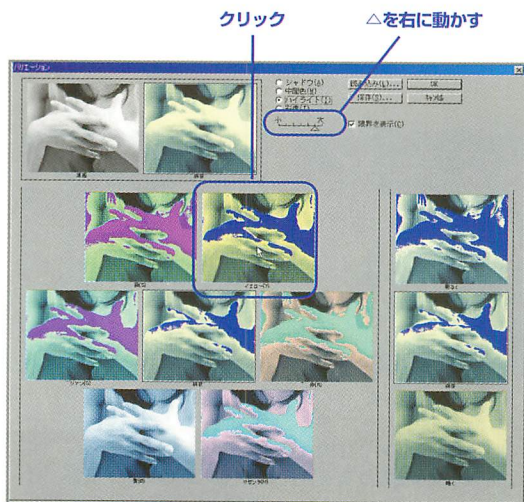
3 オーバーレイ
複数の写真をスライドにして重ねたような効果で、明るい色になります。

4 比較（明）
下の写真の階調と比べて明るければ表示し、暗ければ透明になります。透明部分には下の写真が表示されます。

手の写真に色をつける

「バリエーション」コマンドを使って、色を変えます。写真のハイライト（明るい部分）とシャドウ（暗い部分）の両方に対して「バリエーション」を実行し、グレースケールの写真に色をつけます。

1 [イメージ] メニュー→ [色調補正] → [バリエーション] を選択します。

[ハイライト] をクリック

2 [バリエーション] ダイアログボックスが現れます。画面右上で [ハイライト] をクリックして●を付けます。このままでは色の変化が少ないようなので、強さを調整してみましょう。

クリック　△を右に動かす

3 スライダを右に2段階動かし、色の変化を強くしてから、[イエロー (Y)] を1回クリックします。

ここがポイント!!

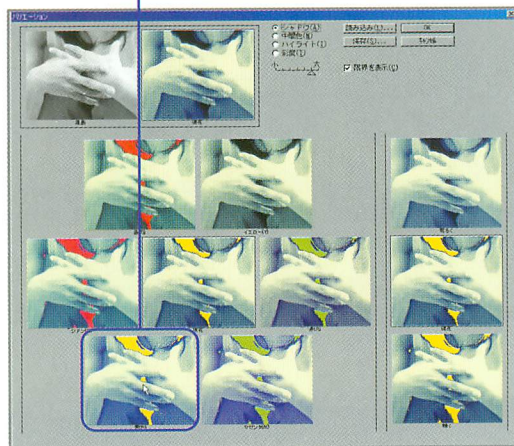
色の変化する強さをコントロール

[バリエーション] ダイアログボックスにあるスライダで、色を1回クリックしたときの強さを設定します。[小] に近付ければ色の変化は小さく、[大] に近付けるほど色の変化が大きくなります。強くしすぎると階調がなくなり、色が極端に変わることがありますから、「原画」と「現在」を見比べながら設定してください。

ここがポイント!!

黄色と青の関係は？

黄色の反対色が青です。青みを増すことが、黄色を抑えることになるわけです。ここでは［シャドウ］に対して操作をしていますので、影の部分を中心に色が青くなります。

4 写真の暗い部分が明るくなりすぎてしまったので、シャドウを調整します。ダイアログボックスの［シャドウ］をクリックしてください。

5 スライダの位置はさきほどと同じまま、［青］を1回クリックします。

6 スライダを［小］の方へ移動して、強さを控えめに設定してから、もう一度［青］をクリックします。

7 今度は写真全体が暗くなりすぎたので、右側の［明るく］ボタンを1回クリックします。

クリック

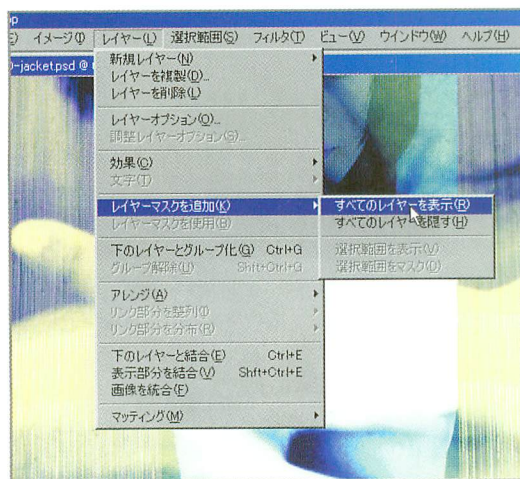
8 ［原画］と［現在］を見比べてください。手の写真の明るい部分が黄色、暗い部分が青っぽく変わりました。設定が完了したら、［OK］ボタンをクリックします。

9 手の写真に色がついて、ずいぶん雰囲気が変わりましたよね。

隠れている顔を出す

3枚の写真を合成した時点で、アーティストの顔に影ができてしまいました。それを取り除く作業を行いましょう。ここではレイヤーマスクを使うところがポイントです。

1 グレースケールだった手の写真に微妙に色がついて、ずいぶん印象が変わりました。でもちょっと残念なことに、顔の部分に黒い影が重なったままです。

2 ［両手］レイヤーに対して［レイヤーマスク］を作りますので、［両手］レイヤーを選択されていることを確認してください。

3 ［レイヤー］メニュー→［レイヤーマスクを追加］→［すべてのレイヤーを表示］を選択します。

4 ［レイヤー］パレットで確認すると、両手の写真の右側に［レイヤーマスク］の表示が出ています。

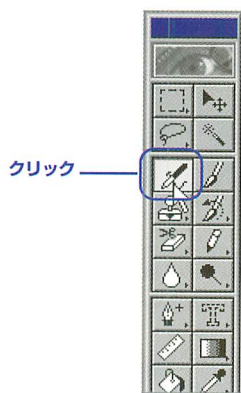
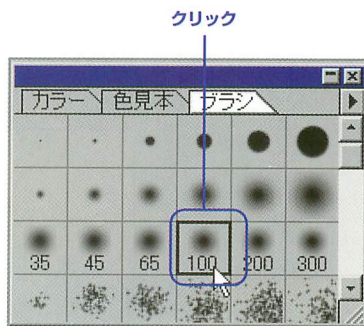
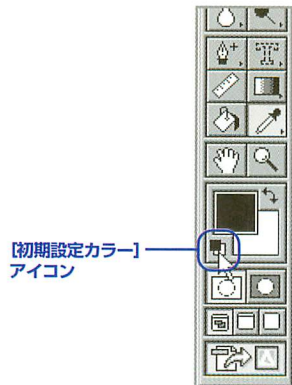
ここがポイント!!

レイヤーマスクと画像との切り替え

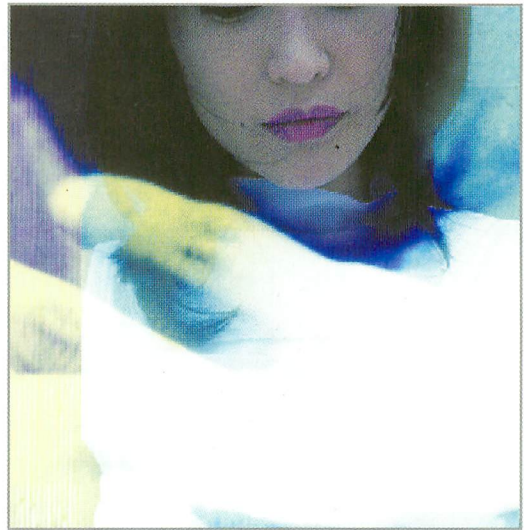
レイヤーマスクを作成した場合は、画像とレイヤーマスクを別々に選べます。どちらが選ばれているのか確認しながら作業するようにしましょう。

1 [レイヤーマスク] を作成した時点では、[両手] の写真ではなく、[レイヤーマスク] の方が選ばれています。目の右の欄のアイコンに注目。

2 選択を [レイヤーマスク] から写真に切り替えるには、[両手] の写真のところをクリックします。

3 [両手] の写真が選ばれている状態です。目の右の欄のアイコンがブラシに変わります。

5 ツールボックスから [エアブラシ] ツールを選びます。

6 [ブラシ] パレットから [100] というサイズのブラシを選びます。このブラシは輪郭がややぼけたタイプになります。

7 ツールボックスの［初期設定カラー］アイコンをクリックして、［描画色］を「黒」にします。

8 顔にかかった影の上を［ブラシ］ツールで、ペイントするようにドラッグします。

9 だんだん顔が現れてきます。

10 さらに続けて、人物の顔にかかっている黒い影を消していきます。どうです、きれいになりましたか？今日はこれで終わりにします。今日はこれで終わりにしますので、［ファイル］メニュー→［保存］で上書き保存をしておきましょう。

ちょっとコラム レイヤーマスクを知る

「レイヤーマスク」は、レイヤーをマスキングするための特別な版です。[レイヤー] パレットを見るとグレースケールで表示されていますが、黒い部分が写真をマスク（覆う）するところです。レイヤーマスク上でペイントなどの作業をすることで、写真のその部分を隠すことができるのです。

❶ [レイヤー] パレットの [レイヤーマスク] にはブラシツールで描いた部分が表示されています。

❷ [チャンネル] パレットに切り替えると、[両手マスク] という新しいチャンネルが用意されています。[両手マスク] の [チャンネルの表示を切り替え] をクリックして目のアイコンを出します。

❸ [チャンネル] パレットの「RGB」の目のアイコンをクリックすると、RGBの3つのチャンネルが消えて、[両手マスク] だけが表示されます。

❹ [両手マスク] では、ペイントした部分が黒くなっています。黒い部分は、「両手」の写真が表示されないようにマスクしているのです。